

# さくらやま便り

No.335号 2022年（令和4年）8月15日



## 「老い方はアート」

エッセイ（2）

板東 洋三郎



山道や整備されていない悪路を走ることには特化したオフロードバイクで、63歳の男性が林道を走行中に転倒し、腰椎を骨折する大けがをした。関西のある地方で数か月前に

起こったこの出来事が報道された時、例によって直ちにネット上でコメントが飛び交った。「なぜそんな危険な道を走るのが」という、いわば素朴な疑問から「そんな歳になって、動体視力が落ちていないとも思っているのか」等々、容赦ないバッシング調のコメントで溢れた。

一方、最近多発していると言われる高齢登山者の遭難事故についても、報道の後多くのコメントが寄せられる。「なぜ……?」「そんな歳になって……?」というバッシング調のコメントもあるが、概して現地を詳しく知る経験者の、助言調のコメントが多いのが興味深い。

いずれにしても、加齢による集中力、判断力、あるいは敏捷度の低下は、程度の差はあれ紛れもない現実である。登山でヒヤリハットを経験したことがある身としては、高齢による老化がこのような事故の原因の一つであることは認めざるを得ない。

ただ、人間には理屈では、はかれない欲求というものがある。たとえそれが、時には自身にとって危険や不利益を意味することであってもである。もちろん高齢者も例外ではない。

人口に占める高齢者の割合が高いからか日本では、高齢者の関わる事故や事件の報道が目につく。視聴者の中には、これらの報道から高齢者の「迷惑行為」に話を持っていく人も多い。確かに「迷惑行為」をする高齢者はあまたいるのだろうが、その人たちの多くは、高齢になったから「迷惑行為」をするのではなく、もともと「迷惑行為」をする傾向のあった人たちが、そのまま高齢者になったに過ぎない。あくまで私の憶測であるが。

もう一つ誤解されやすいことは「高齢」イコール「老い」だと考えることである。確かに、高齢と老いは重なるところが多いが、必ずしも同じではない。高齢は加齢の結果である。生まれてからの時間の積み重ねであり、量の問題である。全ての人に起こる。1分たりとも戻すことはできない。一方で「老い」は、「質」の問題である。言うまでもなく、DNAや環境も影響すると思うが、「老い」はその人の意志が働く余地がある。

冒頭のオフロードバイクの事故に戻る。

辛辣な多くのコメントの中に、夕暮れ時の私の脳裏に明かりをともししてくれるような一つを見つけた。

「若いときは、昨日までできなかったことが、今日からできるようになる。しかし、老いると、昨日までできたことが、今日からはできなくなるということを理解して、受け容れる準備が必要」とある。事故を起こしたライダーを、齢のゆえに非難するわけではなく、優しく諭すような口調である。自身の体験によるものか、観察や思索によるものかわからないが、言い得て妙である。

そんな時見つけたのが、幕末の福井県人で歌人の橋曙覧（たちばなのあけみ）の歌集「独楽吟」である。日常の些細な出来事に見出す楽しみをこの歌集に残している。今まで、できていたことができなくなることの辛さや不安は、本人にしかわからない。しかし、できなくなったことを嘆くだけではなく、できることの喜びや楽しみを示唆してくれる。いくつ引用する。

「たのしみは 珍しき書（ふみ） 人にかり 始め一ひらひろげたる時」

・施設の書架から嬉々として本を借りて行く人を見かける。

「たのしみは 朝おきいでて 昨日まで 無かりし花の咲ける見る時」

・毎朝の散歩で見つけた小さな草花を廊下に生けて、楽しませてくれる人がいる。

「たのしみは 小豆の飯の冷えたるを 茶漬けてふ物に  
なして食ふ時」

・雑炊がごちそうの時代があった。

「たのしみは 紙をひろげて とる筆の 思ひのほかに  
能く書けし時」

・子供の時に褒められた」という人。また書を始めたい  
言っていた。

「たのしみは 空暖かに うち晴れし 春秋の日に 出で  
ありくとき」

・いつもの時刻に、いつもの道を歩く人々。歩くは楽し  
く、見るは励まし。

それにしても橋樑が170年余り前に詠んだ歌が、こん  
なにも新鮮なのは驚く。「作品にふれて、気持ちや心を  
動かされること、またその作品そのもの。」ある国語辞典  
がこのように定義するのが「アート」である。何かの折に  
この定義を目にした時、ふと思いつかんのは、人の「老  
い方」である。時として楽しみよりも心身の痛みが伴う  
「老い」。しかし、それは、まさに完成に向けて製作中の  
「作品」であり「アート」だからなのだろう。  
かくして、私もアーティストの仲間入りをすることに。

### 生活相談員から

ケアハウス主任 遠藤裕之

### 1. 浴室改修工事が終わりました

改修工事に伴い、期間中は大変ご不便をおかけしま  
した。皆様のご協力に心から感謝致します。

### 2. 新入居者様のご紹介

214号室 伊佐 真之 様

8月1日付で入居しました。引越し日は未定です。  
皆様、どうぞよろしく願います。

### 3. コロナウィルス感染症に関して

現在、シャローム桜山においては、第7波の状況を  
踏まえた上で、お客様の「ご訪室」については極力お控え  
下さるようお願いしております。健康上の理由等で居

室への入室を希望される場合は事前に事務所までお申  
し出ください。なお、訪問看護、介護、リハビリ等に  
関する入館、入室はこの限りではありません。また、  
館内の保守点検に関する業者の入館、入室について  
は、検温、手洗いを徹底した上で許可をする予定です。

### 4. シャローム桜山で感染が確認された場合

オミクロン株は想像以上の感染力があり、いつ、誰  
が、どこで感染してもおかしくない状況です。

館内で感染が確認された場合は、居室前にビニール  
カーテンを設置してゾーニング(廊下と居室前の空間を  
分ける)を致します。その際、廊下に出ることはできま  
せんのでお食事はすべて居室配膳します。居室前に置  
いてある装飾品はお片付け頂きます。

入浴も室内の水道水(お湯)を使用して清拭でお済  
ませ頂くこととなります。これらの期間については厚  
労省の基準に則り、感染が確認された日を起点日(0  
日目)として10日間です。11日目から外出が可能にな  
ります。その間の必要なやり取り(ご家族や事務所  
等)はお持ちの電話で行うようお願い致します。その  
他、詳細につきましては事務所までご相談下さい。

※ シャローム桜山では、感染者が出た場合、感染の拡大

を防止する観点から居室番号等の情報を共有致します。

共に心を寄せ合ってこの難局を乗り越えましょう。

(施設長)

### 5. 結核に関わる年に一度の健康診断について

7月のフロア別懇談会で、皆様に「結核に関わる検診  
のお願い(自己負担で医療機関を受診し、証明書を提出し  
て下さいと言ってお知らせをしました)」をしたところで  
す。この件について横浜市に確認した結果、毎年、シ  
ヤローム桜山が主体となって行うことが望ましいと判  
断いたしました。詳細は追ってお知らせしますが、今  
年度の検診は11月ごろを考えております。医療機関と  
調整の上、改めてお知らせいたします。  
なにとぞよろしく願います。

### 栄養課から

ベーカリーパテシエ 森田ルミ

### パン作りから見えるもうひとつの世界

いつの時代でも人気のパン。街の小さなパン屋さん  
からお洒落な演出の効いたパン屋さんまで、至る所に  
パン屋さんがあり、まるでパン天国と言っても過言で  
はないくらい、日本人はパンが大好きなようです。

さて、パンの業界には「天使のささやき」と言う言  
葉があります。特にフランスパンのような固いパンを  
焼いたあと、オープンから取り出して冷ます時にそれ  
は聞こえます。生のアーモンドをオープンで焼いたと  
きにはキンキンというきれいな金属音ですが、パンの  
場合は金属音と言うよりはむしろシャリシャリという  
ような音です。「ささやき」と言うよりは「おしゃべ  
り」の方が合っているかもしれませんね。いずれにし  
ても、この音はオープンから取り出した後に聴こえる  
もので、パンを焼いた者だけが味わえるメルヘンチ  
ックで楽しい時間です。

店頭に並んだパンはどれも味や形が違っていて、そ  
れぞれの個性に応じた世界を主張しています。そのよ  
うなパンが出来上がった時に奏でる静かな世界には、  
言葉では表現できない不思議で夢のある世界があるの  
です。そう考えますと、パンの味わい方も変わるかも  
しれませんね。

### 8月の誕生日

1日 高澤 守夫 様

4日 古川 澄子 様

27日 橋本 泰子 様

お誕生日、おめでとうございます。  
お健やかな毎日をお祈り致します。